

<北海道熊研究会 会報> 第 102 号 2021 年 6 月 26 日

北海道熊研究会事務局 北海道野生動物研究所内(Tel. 011-892-1057)

代表 門崎 允昭

事務局長 Peter Nichols ピーターニコルス氏

幹事長 藤田 弘志 氏

ご意見ご連絡は本紙送信 email ではなく、下記の email へお願い致します

e-mail: [kadosaki@pop21.odn.ne.jp](mailto:kadosaki@pop21.odn.ne.jp)

既報会報の 1~101 号は Website に「北海道野生動物研究所」と入力しご覧下さい

既報会報の 1~90 号は Website に「北海道野生動物研究所」と入力しご覧下さい

「北海道熊研究会」Hokkaido Bear Research Association の活動目的

熊の実像について調査研究し、熊による人畜及びその他経済的被害を予防しつつ、人と熊が棲み分けた状態で共存を図り、狩猟以外では熊を殺さない社会の形成を図るための提言と啓発活動を行う。この考えの根底は、この大地は総ての生き物の共有物であり、生物間での食物連鎖の宿命と疾病原因生物以外については、この地球上に生を受けたものは生有る限りお互いの存在を容認しようと言う生物倫理(生物の一員として人が為すべき正しき道)に基づく理念による。

## 札幌で熊に依る人身事故発生

札幌市を含む北海道で、人里や市街地に出て来た熊が人を襲ったり威嚇した事例は、1964年9月9日に、平取町振内での人事故を最後に、それ以来絶えていたが、今回57年振りに、2021年6月18日(金曜日)に札幌市東区で、4人が相次いで襲われ負傷する事故が発生した。札幌市の公表では、その個体は雄で、体長161cm、体重158kgだと言う。年齢は不明(歯の年輪で分かるが)、体長・体重から3才以上である。その熊は、門崎の見解では当別町の棲場から移動して来たもので、その目的は、己の本来の生活地以外の場所に関心を持ち、その探索に出て来たもので有ろう。

(1) 今回の熊騒動の経緯を時系列で見ると以下の通りである

- ① 5月29日(土曜)、18:50頃、茨戸拓北(ハラタクキ)の茨戸川緑地の波連湖(ハコ)の脇の茂みを1頭の熊が歩いて居るのを、川沿いの道から100m程離れたた場所を歩いていた市民が目撃し、通報した。
- ② 前記①から3日後の6月1日、と18日後の6月16日に、①の付近で、熊の糞が確認された。糞の内容物は、総て草類であった(種類は不明との事。木の実は一切無しとの事)。

### <市街地に向けての行動を開始>

③ 6月17日の晩から、本能的に人を避けて市街地に向けて行動を開始し、人と遭遇し難い箇所を移動して検分に出て、行動し、翌早朝(18日)の夜明け前に、根拠地に戻るべく、その方向に向かって、進んでいた途上に、人に姿を見られてしまい、騒がれ出し、追跡された事から興奮し、午前5:55頃から、遭遇した人を、襲い出し。

結果として、4人を襲い、重軽傷を負わせた。そして、その熊は銃殺駆除された。

### <この間の熊の行動について>

この熊が翌朝の午前3時過ぎまで、人に目撃されずに行動していたことは、この熊は人を避けて、行動しようとしていたことは、明白である。出て来た元の場所に戻り始めた時刻が遅くなり、それで、人に目撃され出し、更に、人と遭遇し、大騒ぎになり、それでパニックとなり、我を忘れて、人に手を出し始めたもので有る。パニック状態にさせなければ、人身事故は回避し得るが、それは、至難である。いずれにしても、以下に述べる対応を、行政の担当者が、早期に適切に行っていれば、今回の騒動悲劇は回避し得たと看取する。

### <今回の熊騒動に対する門崎の見解>

5月29日熊を目撃した時点で、その熊が当別町の本来のこの熊の生息地に、戻った事を確認するまで、その熊の動向を、徹底的に調査すべきであるのに、それを怠った事が、今回の事件の、根本原因である。と断定する。

### <札幌市と北海道の行政が為すべき対策>

5/29～6/17迄の30日間、その熊はその付近を根城として、居たはずである。この間に、この熊の動向を調査し、根城などを特定して、根城一体をU字型に電気柵を張り、通電させて、その熊本来の元の棲み場に戻させる(戻る可能性はあった)を実施していれば、今回の事故は回避し得たと私は見るが、市も道も、そう言う対策を全く行っていない。少なくとも、熊の動向を、その熊が元の本来の場所(当別町の山野)に戻るまで、追尾監視すべきなのに、それを怠った事が、今回の最大の原因である。

### 今回の熊が当該地に出て来た目的

己の本来の行動圏以外の場所に関心を持ち、探索に出て来たもので有ろう。現時点では、それ以外考え難い。行動に当たっては、人と遭遇しないよう行動して居た事から、人と遭遇し、騒がれる前までは、正常な精神状態であった事は確実である。その後、不本意に人と遭遇し、騒がれた事から、パニック状態に陥り、今回の事故を生じさせたものである。そう考えるのが妥当である。

